

法 金 剛 院 旧 境 内 跡

発掘調査現地説明会資料

1 9 9 6 年 1 1 月 1 7 日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

法金剛院旧境内跡

所在地	京都市右京区花園寺ノ内町
調査期間	1996年10月8日～継続中
調査面積	約280㎡
調査主体	財団法人京都市埋蔵文化財研究所

◇概要

今回の調査は、昨年度から実施している花園駅南側に新設される道路建設に伴うものである。昨年の発掘調査では、法金剛院旧境内のほぼ中央に位置する池の西岸において保延二年（1136）に供養された三重塔跡や洲浜跡などを検出した。

現在調査を行っている場所は、昨年度とは反対側の池の東岸部に相当する。平安京の条坊復原によれば当調査区の東半部は、西京極大路の西築地や路面などが推定される場所である。調査の結果、建物地業・池・瓦溜などを検出した。

建物地業 調査区の東側で検出した。検出したのは、西京極大路（幅十丈＝約30m）と中御門大路（幅十丈＝約30m）が交差する道路敷内にあたる。建物の地業と推定した土層は、現代層の直下で発見され、周囲の土層とは質や固さが異なっていた。断割調査の結果、この部分は粘質土や小石混じり土を用いて、ある一定の単位ごとに固く叩き締めている。地業の東半部には、河原石で単位を縁取るように作業した痕跡が見られた。ところで地業の西端は、推定西京極大路西側築地心のライン上にあたる。

整地層からは、12世紀前半の特徴を示す土師器皿がほぼ完全な形で1点出土している。こうした工法は、同時代に造営された寺院跡の建物地業と共通しているため、この痕

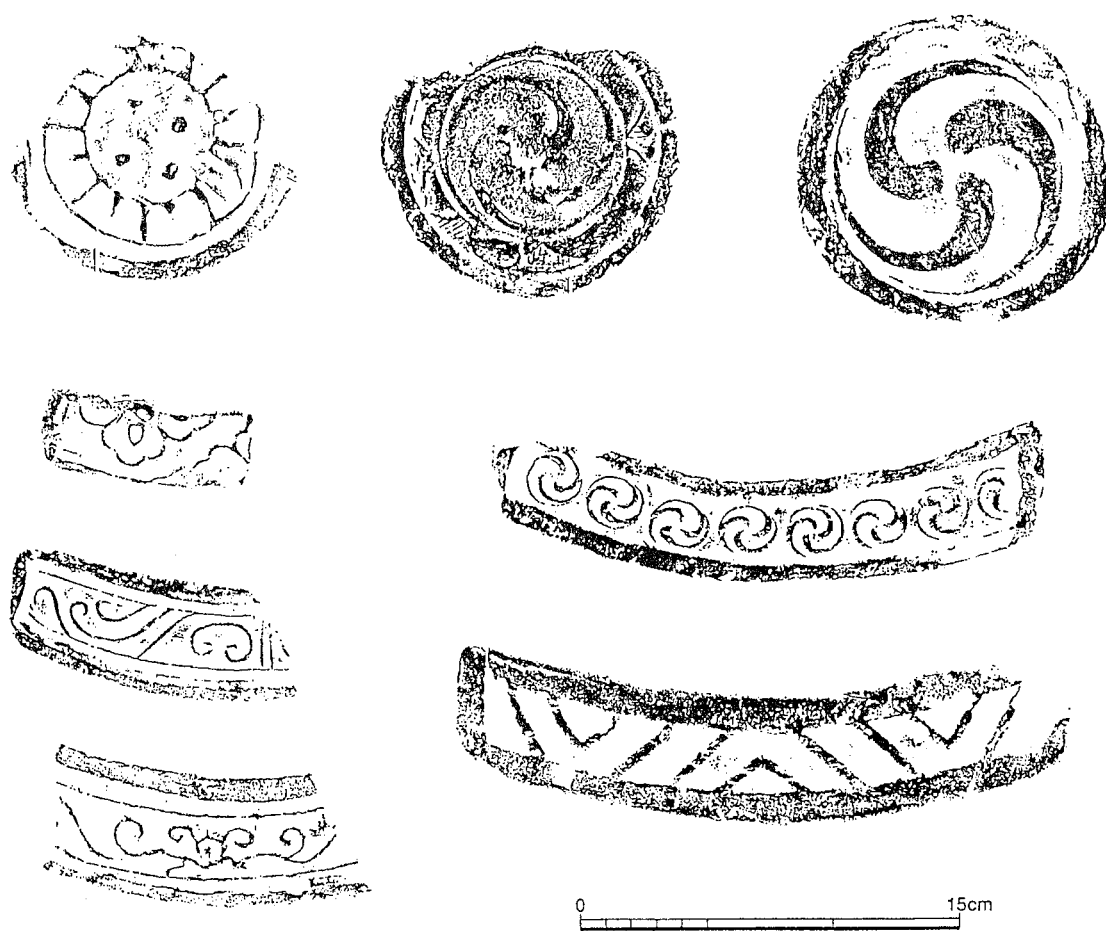


出土土師器（1/4）

跡を建物跡と推定した。この地業の建物については、検出した位置などから法金剛院の東門ではないかと考えている。

池跡 調査区の西端で検出した池の東岸である。岸は緩やかな傾斜をなしているが、洲浜や景石などは見られない。

瓦溜 建物地業のすぐ西側に掘られた比較的浅い土壙である。土壙内からは播磨国や地元の山城で生産された軒丸瓦・軒平瓦や丸瓦・平瓦などが多数出土した。



瓦溜出土の軒瓦拓影（1／3）

◇調査成果

(1) 今回の調査によって、法金剛院の東門跡の一部を明らかにすることができた。その位置は、西京極大路と中御門大路が交差する西側に位置するが、その場所は現在推定している西京極大路内にあたる。

(2) 門の地業は周辺部の整地と共に行っているが、建物位置にあたる部分は土質を替え版築状に丁寧に叩き締めながら念入りに行っている。また、その最下層には河原石を粗く敷き詰めている。こうした工法は、軟弱な地盤に建物を造営する際に地盤改良を目的に採用された方法である。類似したものは、平安時代後期から鎌倉時代にかけて造営された鳥羽離宮跡、六勝寺跡、法住寺殿跡などの寺院跡や御所跡などに見られる。

(3) 門の正確な規模や構造については、残念ながら後世の削平によって明らかにできなかつた。しかしながら、つい最近まで門の基壇跡は盛り上がっていたことが、調査区の土層断面や周囲の起伏などからうかがい知ることができる。

◇法金剛院の門に関する史料

大治五年（1130）十月二十九日

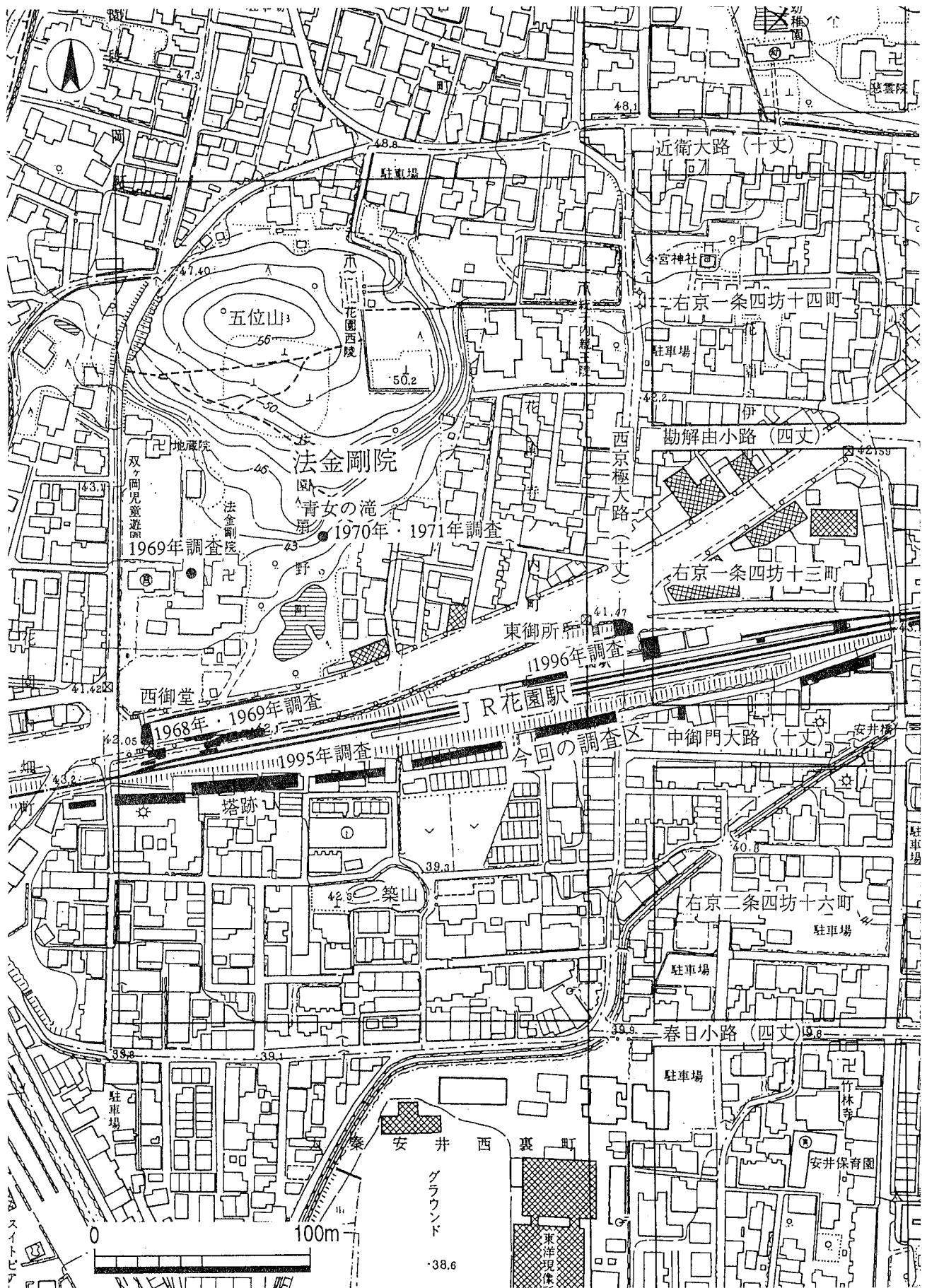
…今夕両院初渡法金剛院御所、（中略）、此亭本是昔天安寺舊跡云々、掘大池、西作御堂、大門西面、池東作御所、御門東面、造営之體、大略一町、宅過差美麗也、

『中右記』

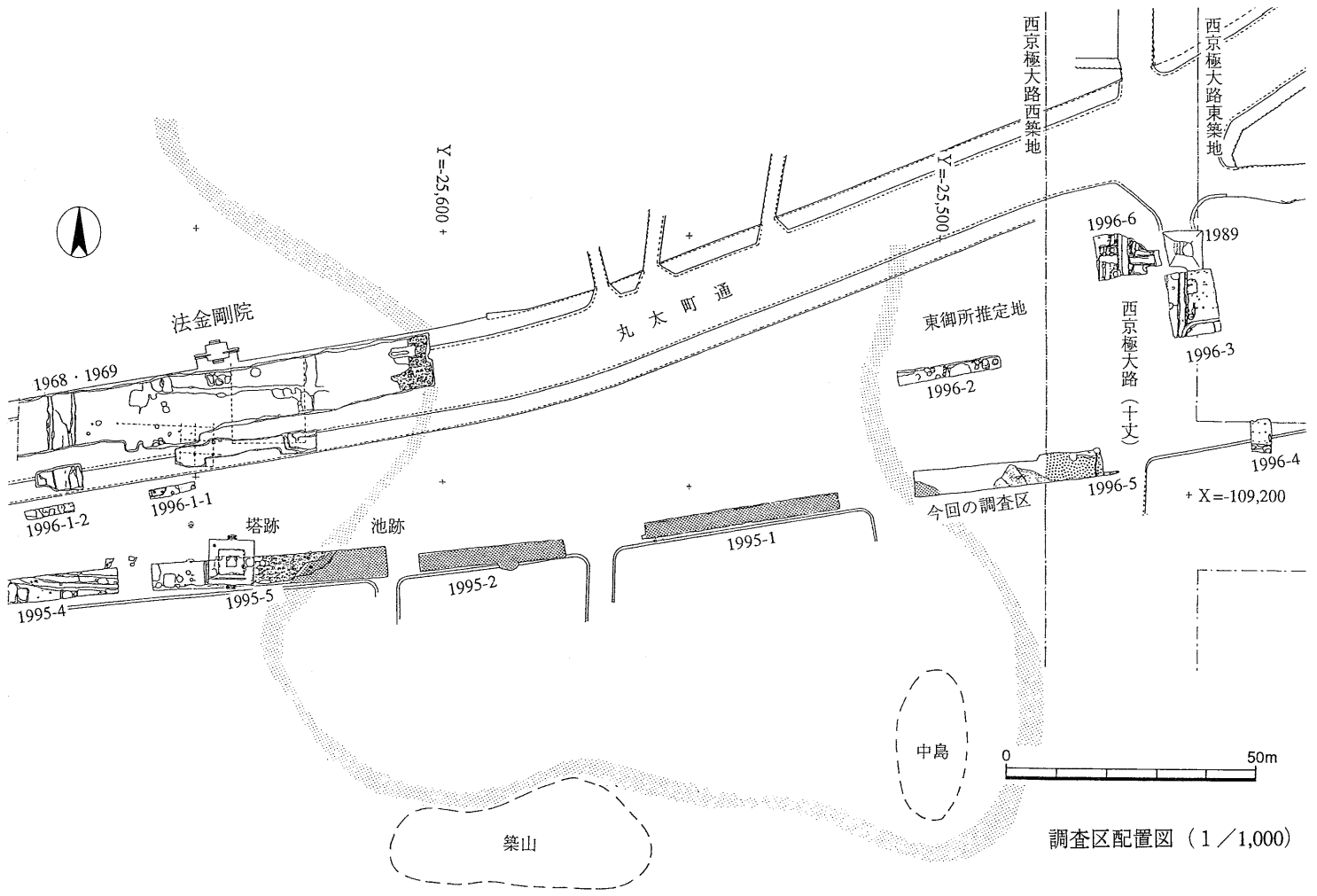
《参考資料》

- | | |
|---------------|--------------|
| ① 鳥羽離宮北殿勝光明院跡 | 保延二年（1136）供養 |
| ② 鳥羽離宮田中殿跡 | 仁平二年（1152） |
| ③ 鳥羽離宮金剛心院跡 | 久寿元年（1154） |
| ④ 法住寺殿跡 | 12世紀後半 |

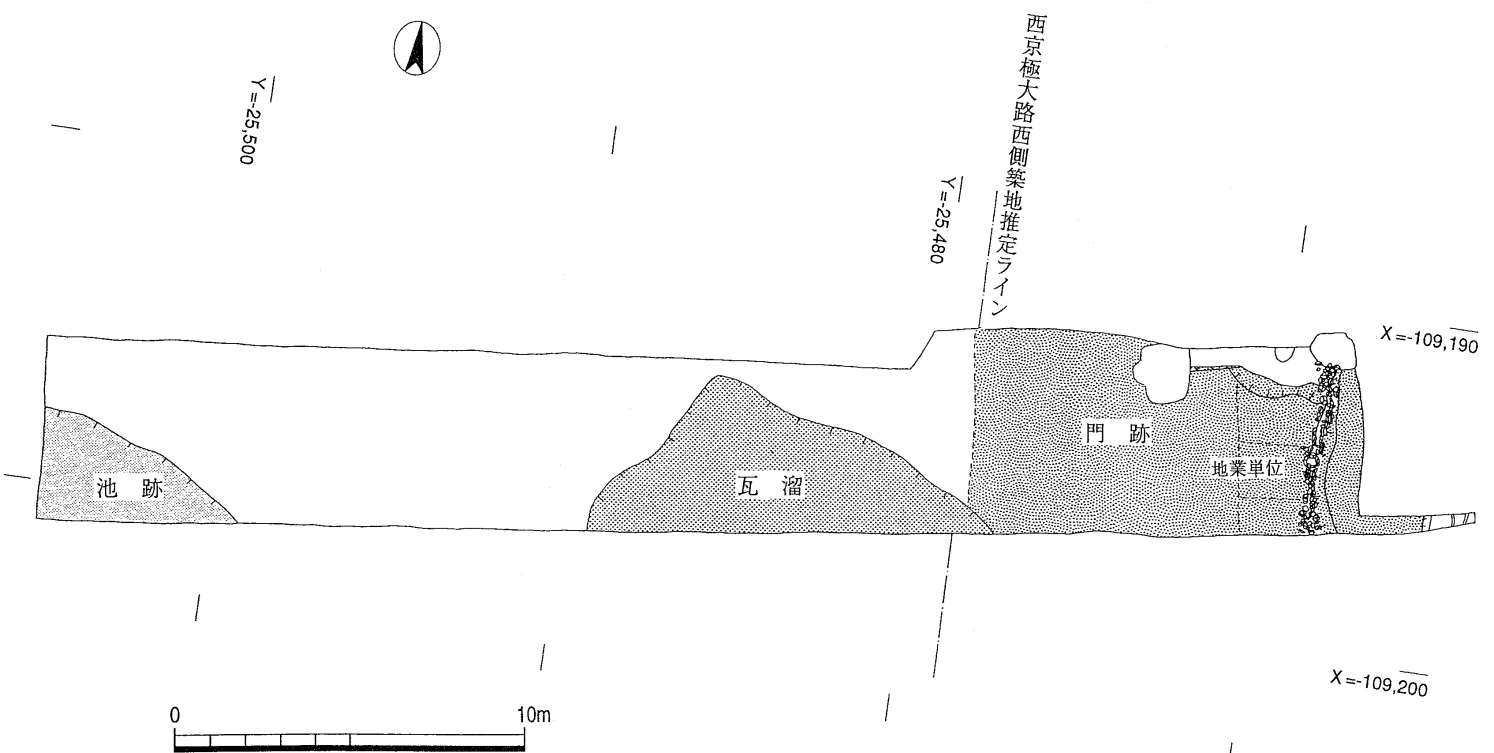
（番号は参考資料建物地業の写真番号と同じ）



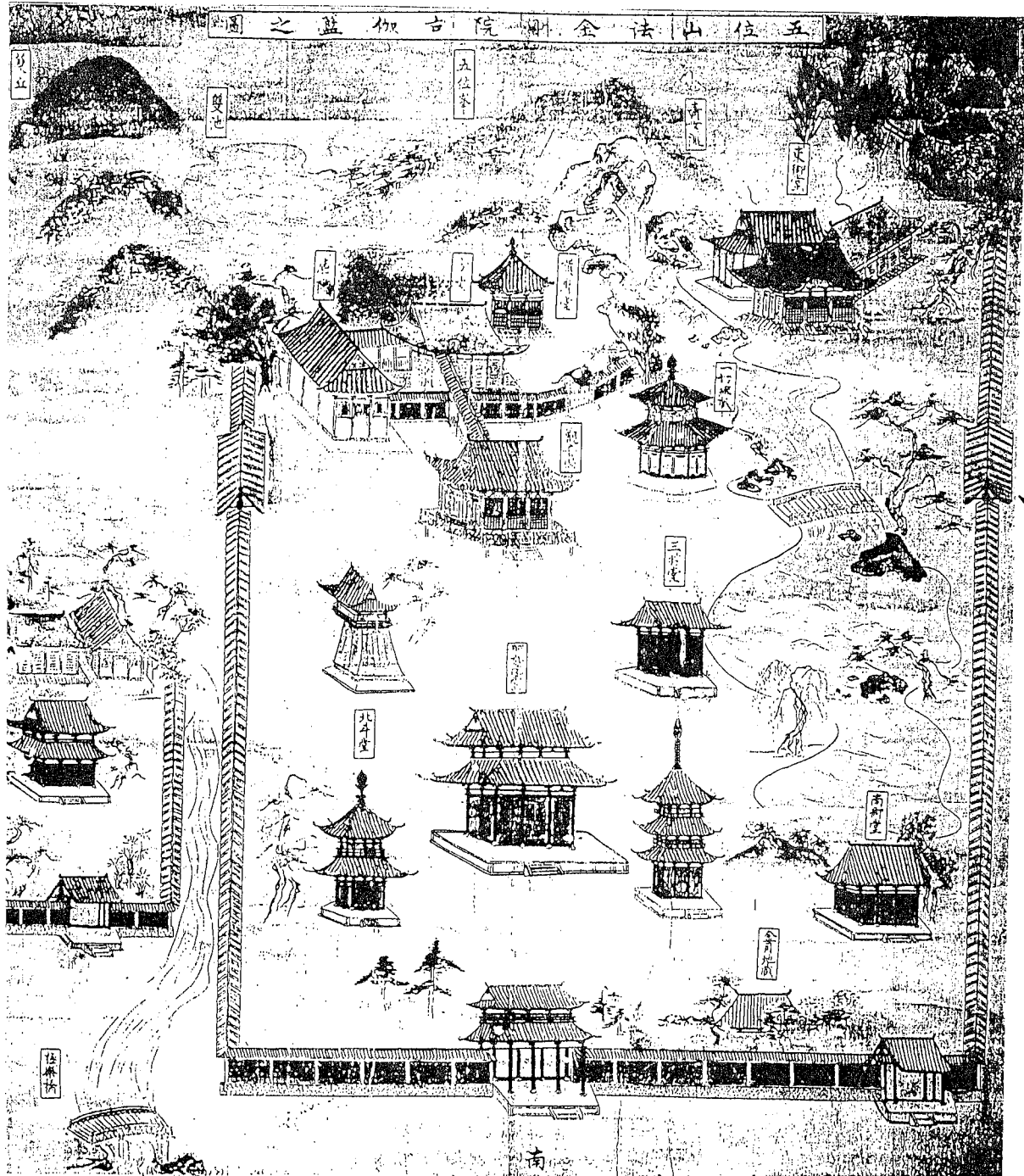
調査位置図 (1/2500)



調査区配置図 (1/1,000)



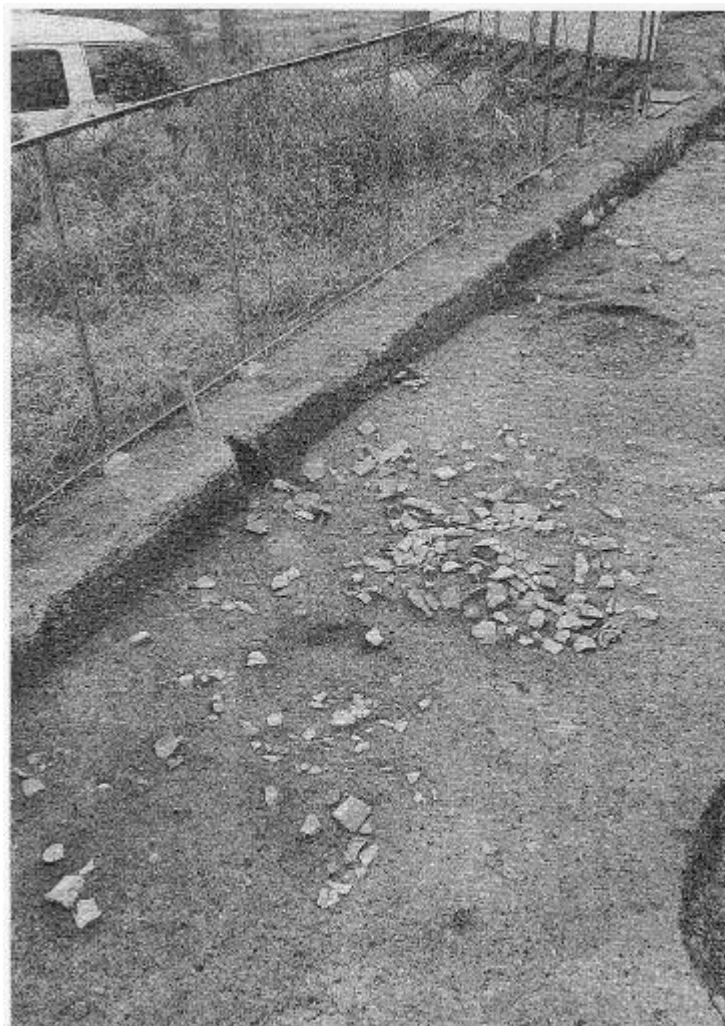
遺構実測図 (1/150)



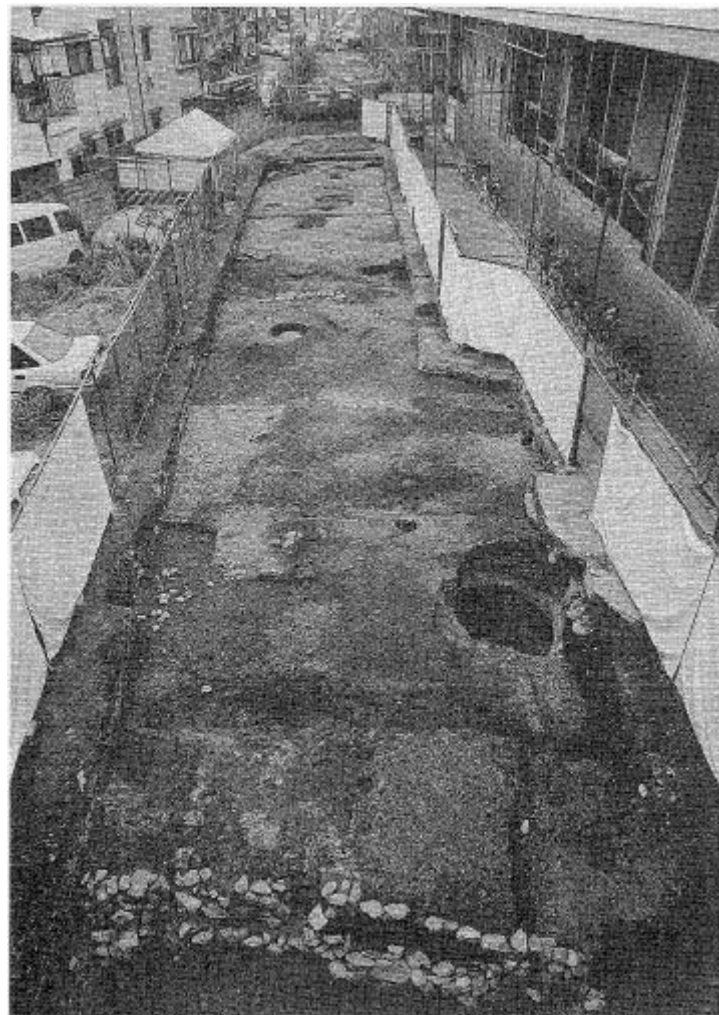
「五位山法金剛院古伽藍之図」

(法金剛院提供)

※この古図によれば門は、寺域のやや北寄りの東側と西側にそれぞれ1箇所、南側では中央と南東隅とに描かれている。



瓦溜検出状況（東から）



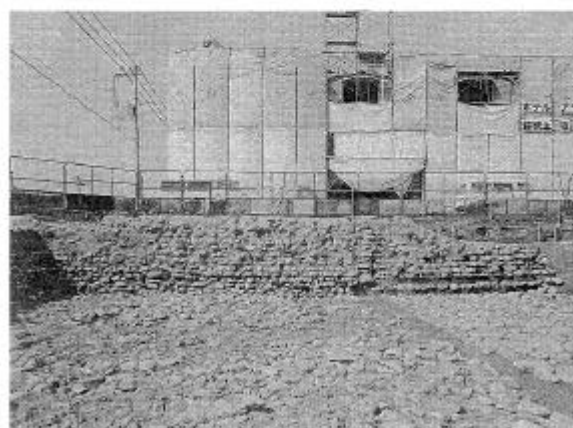
調査区全景（東から）



① 烏羽離宮勝光明院跡



② 烏羽離宮田中殿跡



③ 烏羽離宮金剛心院跡



④ 法住寺殿跡